

## 2-2- 水不足、電力不足が経済復興の大きな足かせに

戦後の復興期、渇水や電力不足が発生し、水資源やエネルギーの確保が国家的課題となりました。特に、昭和33年は暖冬で春型渇水に見舞われ、利根川下流部において干塩害が発生し、水稻に多大な被害を与えました。

### 利根川の塩害

昭和30年頃から、東京の膨張に合わせて利根川の水が消費され、慢性的な渇水状態となり、昭和33年には千葉県下で4億円にもものぼる塩害の被害が出てしまいました。



(出典:利根川下流河川事務所ホームページ)

### エネルギーの確保

戦後の復興期には電力不足が経済発展の支障となっていたため、速やかに電源開発および送変電施設の整備を行うことにより電気の供給を増加し、わが国に産業の振興発展に寄与することを目的として昭和27年には**電源開発促進法**が制定されました。

(出典:文部科学省原子力図書館)